

21世紀型教育、始動

東京の西に明法あり！

明法中学・高等学校

教員主導のプロジェクトで国際基準「4つのC」を育成！

21世紀型スキル「4つのC」

Creativity
(創造性とイノベーション)

Critical Thinking
(批判的思考力と問題解決)

Communication
(コミュニケーション)

Collaboration
(他者との協働)

新時代に必要な資質・能力の育成を目指しつつ、**次期学習指導要領**や**新大学入試問題**にも対応！

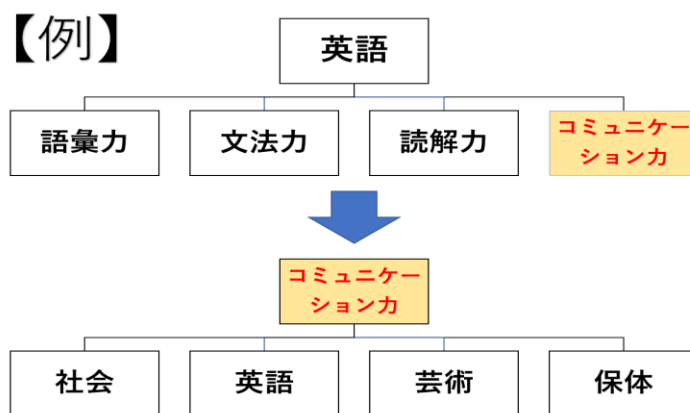
今年度(2017年度)、本校では21世紀型教育研究のためのプロジェクトチームを結成しました。各教科からメンバーが集まり、授業改善を目標に研究会の開催や研究授業などに取り組んでいます。授業設定での共通ポイントは、「4つのC(左記)」「ICT活用」「**答えが1つでない問題**」といった要素を取り入れること。さらに、年間を通して外部研修への積極的な参加や21世紀型教育関連図書の購読も自己研鑽のための約束事となっています。

次期学習指導要領の要でもあり、センター試験に代わり2020年度から開始される新たな大学入試問題での測定の中心となる「**思考力・判断力・表現力**」。本校では、これらを21世紀型教育を通して育てていくことを目標にしています。

研究会メンバー用 Check List

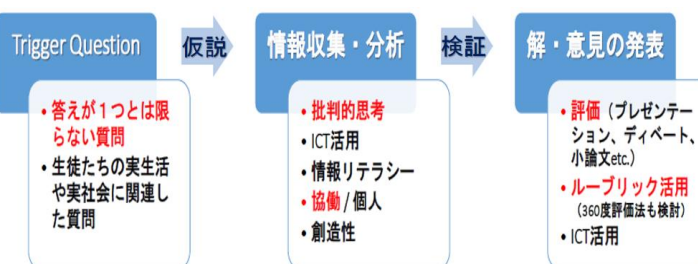
- ☑ 生徒が**創造性**を発揮する機会を設けている。
- ☑ 生徒が学習の成果を**発表**する機会を**様々な方法**で設けている。
- ☑ 生徒が仲間と**協働**したり、自らの学習を**振り返る**機会がある。
- ☑ 生徒が会得した知識を現実社会の課題と関連づけるために、**外部講師**を招聘している。
- ☑ 生徒が**インターネットの安全な使い方**を十分に理解している。
- ☑ 教師(自分)が**研修会**に積極的に参加する努力をしている。
- ☑ 教師(自分)が新たな事に**挑戦**し続ける良きモデルとなっている。
- ☑ 教師(自分)が自身の授業を「**生徒になっても楽しめる**」という自負を持っている。 *以上、実際のリストより一部抜粋

教科横断で「4つのC」を育成



編集後記

思い起こせば、初めて「21世紀型スキル(4つのC)」という新時代の学力観と出会ったのは7年前の2010年。リーマン・ショックの影響による世界同時不況の最中、「不確実性」の高まったグローバル社会、知識基盤社会に生きる子供達が身につけるべき能力として、当時米国の教育界ではその概念が急速に広まっていました。以後、PISAなど国際学力調査もその影響を受けることとなります。日本も例に漏れず、次期指導要領にはその影響が色濃く反映されています。2013年、本校でも「21世紀」と冠したオリジナルの高2・3文系選択科目を設置し、新しい時代の要請に対応した教育を実践してきました。今年度、全学的な21世紀型教育の実践という新たな挑戦がいよいよ始まります。



【発行】21世紀型教育推進部(新設)

*各教科における授業実践等活動の詳細は、ホームページにて随時発信していきます。